

ハローキャリアワーク通信

令和8年3月27日
教育総合センター
事業推進担当課

3月26日(木)、池尻の「Home/Work Village」で、「撮影技術体験」の活動が行われました。今回のプロジェクトには、小学4年生から中学校1年生の当選者5名(応募総数:39名)が参加しました。

教育委員会の担当者から「Home/Work Village」の説明と連絡のあと、世田谷区工業振興協会の千葉寿典さんから、協会と千葉さん自身の仕事についてお話がありました。

撮影の仕事については、「舞台の台本に合わせたカット割りの難しさ」や「テレビやSNSでの撮影の大変さ」、「政見放送などのビデオ作成の裏側」など、普段聞けないお話を聞くことができました。

そのあと、実際に撮影の技術やアナウンサーとしての体験を行いました。



まず、緊急地震速報の報道の体験。

紙の原稿に書かれた原稿を、一人ひとり、放送機材の前で、テレビのニュース番組のキャスターとしてアナウンスする体験をしました。一人が原稿を読み、残る4人が撮影機材をのぞき込み、ニュース番組の本番さながらです。

「5・4・3・2・1・キュー」の合図で原稿を読みます。何度か練習しましたが、声が少し小さかったり、早口だったり、つまってしまったり、カメラをみることができなったり、となかなか苦労しました。千葉さん

から、ゆっくり話すこと、緊急事態の放送なので笑顔を見せないこと、など、アドバイスを受けて、全員が落ち着いた様子で原稿を読みました。

次は、ニュースのような政治・世界情勢の原稿を読む体験。



今回は、プロンプターという機械を使います。プロンプターにデジタルの原稿が表示され、画面が上に流れていきます。プロンプターは、カメラの方向についているので、カメラを意識しなくても良い分、視線は落ち着きますが、一度つかえてしまうと原稿が上に動き続けているので、あわててしまいます。原稿が流れる速さと読む速さが合わないと、原稿が遅れて「間」が必要以上にできたりも

します。紙の原稿と違った苦勞を体験しました。原稿が見えない段階で先読みしすぎないことや、ゆっくりと話すこと、正しい日本語の意識の大切さなども、千葉さんからアドバイスしていただきました。アナウンサーやキャスターの人でも長い文章を読むのは難しいとお話もありましたが、身をもって体感したようです。



最後は、撮影の仕事についての大切なことや質疑応答。

撮影機材にふれる機会もありましたが、お話には2つのポイントがありました。



(1) ニュースの内容、商品の広告、ドラマなどの作品の意図など、伝えたいことが伝わるのが大切。

YouTuberは自分自身が広告で、すべて一人で行い、一番難しい「継続すること」を乗り越えている。楽しさだけではやっていけない。継続するためのモチベーションの維持、視聴者に見てもらおうための工夫など、継続して伝える努力をしている。(だから「YouTuberを尊敬する」と、千葉さんは専門家の視点からお話しされていました。)

(2) 何の仕事も段取りが大事。

カメラで撮影する場合の「カット割り」。「カット割り」の前後で見ている人の違和感を生まないようにする必要がある。時間によって変わる太陽の光の具合(日没を気にしたりする)、「飲み物」の量、人のテンションなど、すべて段取りが重要。撮影機材の準備でも、他の仕事の人との調整や機材搬入の時間・使用内容・動線などの確認など、段取りが多く必要で、とても前から準備が必要。(だから、年末のコンサートの準備を今ぐらいの時期から始めると、千葉さんはお話しされていました。)



専門家の視点から、スマホで写真を撮るときは「片手でなく両手で撮った方がブレにくい」、「1人の人を2方向から撮影し2つの画面を切り替えるような場合、人が重ならないように人をずらしておく」と撮影について技術的なアドバイスもありました。

子どもたちは、普段知らない撮影の仕事の裏側を体験し、現場の大変さや面白さを感じた様子で、体験を終えました。